

## 平成30年度 学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

研修参加者

(学部または研究科・学年) 法文学部 1年

氏 名: 平野 郁実

授業科目名	海外研修基礎コース in カリフォルニア
研修先 (国・地域) 滞在地	ソノマ州立大学 他 (米国・サンフランシスコ、ソノマ)
研修期間	平成30年9月2日～平成30年9月16日
<p>〔研修を通じて得た成果〕</p> <p>今回の研修で学んだことは、現地に足を運んでみなければわからないことばかりだということです。もちろん、アメリカと日本に違いがあることは以前から知っていました。食文化、生活スタイルなどなど違うことは知っていても、驚かされてばかりでした。例えば、毎食時に野菜がたっぷりなこと。アメリカと言えばジャンクフードのイメージがありましたが、食に興味をもち、健康に気を使う人も多いのだなと感じました。ホームステイ先ではいつも野菜たっぷりのサラダを食べましたし、スーパーではグルテンフリー、オーガニックという単語をたくさん見聞きました。生きることは食べること、という言葉がある通り、食が一番身近な薬です。私たちが健康に生きるためにとても必要なのに、なぜオーガニック食品が高く、ジャンクフードが安く売られるのでしょうか。人々の需要度が高いほど価格が上がるというのは経済上の理屈です。食という命に関わるものは人々の手に届きやすくあるべきだと思います。その点アメリカは、教会の炊き出しや、管理栄養士在中の食事宅配所であるセレスなど、貧しい人や体が不自由な人のための活動が活発でした。さらに、こういった活動が行政ではなく寄付とボランティアで成り立っていることには本当に驚きでした。私はこの研修に参加した一番の動機は、FOOD BANKの仕組みを知ることでした。あれだけ規模の大きなFOOD BANKでさえ、NPOが立ち上げ、人々の寄付とボランティアで成り立っていたのです。行政が動くより、市民やそこに住む人々が自発的に動く活動は、人々に活動の意義が伝わり、より持続されると思います。ボランティアする人は、自分が社会の一員として貢献できる達成感を糧に自主的に取り組む人ばかりでした。日本では、近年、社会からの孤立、個人の分断など人と人とのつながりが注目されています。社会のためになっただとわかる活動ができたら、孤独感も薄れるのではないのでしょうか。社会と言えば、アメリカにはいろんなカラーを持った街がありました。LGBTの街、カストロ。メキシカンの街、ミッション。その他にもチャイナタウンなど様々な街を訪れました。それぞれがとても個性的で、すぐ近くの街同士でもやはり雰囲気が変わり、面白かったです。また、お互いの街が独自のカラーを持つだけでなく、お互い干渉せずに尊重し合っているのがとても良いなと感じました。これだけ個性的な街が集まっているのに、それぞれが社会を考え、貢献しようとボランティアに取り組むなど自発的なところも体験することができました。ただし、アメリカに染まるのではなく、あくまでも一つの社会の在り方として学び、日本が幸せな暮らしを送ることができる場所にするためにどう活かせるか考えていきたいです。今回のカリフォルニア研修で、座学では決して学べない貴重な体験をさせていただきました。</p> <p>〔研修後の抱負〕</p> <p>今回の研修を経て、地域に貢献している実感は人々の人生への満足感を高めるのではないかと考えました。公務員になりたい気持ちはより高まりましたし、公務員になってどう行動するか考えさせられました。行政ばかりが地域をつくるのではなく、住んでいる方々あつてのコミュニティなのだと感じました。今後は、国家公務員を目指すかどうかも考えつつ、住民が地域に根差している実感が持てるコミュニティの在り方を考えていきたいです。</p>	

## 平成30年度 学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

研修参加者

(学部または研究科・学年) 法文学部 1年

氏 名: 門之園 梨生

授業科目名	海外研修基礎コース in カリフォルニア
研修先(国・地域) 滞在地	ソノマ州立大学 他(米国・サンフランシスコ、ソノマ)
研修期間	平成30年9月2日～平成30年9月16日
<p>〔研修を通じて得た成果〕</p> <p>今回、この研修に参加して、私はアメリカの文化や土地柄、歴史などについて身をもって学ぶことができた。研修の中では、現地で体感しないとわからないようなアメリカと日本の良い面・悪い面が見えたり、アメリカの社会問題に直面したりと様々な事柄に遭遇したが、私はその中でも貧困問題を取り上げたい。まず、貧困が深刻化した原因は主に5つ存在する。1つ目が貧しい経済、2つ目に手頃な価格の家が少ないこと、3つ目として危険ドラッグの使用、4つ目が教育の欠如、最後、5つ目が医療費の高騰である。そんな中、貧困層を救おうとする団体もあり、その内の一つであるフードバンクという施設を訪れた。フードバンクとは、生活困窮者に食べ物を届ける施設であり、自分たちの地域における飢えをなくすことを目標としている。子どもたちや高齢者に栄養のある食べ物を届けるなどの取り組みを行っているが、他の団体とのつながりも強く、届けるだけでなく、低価格で自ら買い物できるお店の運営もしており、人々の生活に大きく貢献していた。しかし、驚くべきことにその規模の大きな施設は募金やボランティアで成り立っており、働く人や食べ物などは有志によってなんとか機能していた。アメリカでは何か問題が起きると自分たちのことは自分たちで解決しようとする。加えて、自分が所属しているコミュニティに貢献するのは当たり前のことであるためにボランティア活動に対して特別な視線を向けることはない。一方、日本では何か問題が起こるとすぐに市役所などの行政に頼りがちである。それだけ私たちは日常的に行政から生活の支援を受けているということであろうが、本来自分たちのことは自分たちでというのが正しい姿勢ではないだろうか。政治への無関心さや選挙時の投票率の低さなど、日本の社会問題からも日本人の当事者意識の低さを感じることができるだろう。貧困問題を通して日本を振り返ると、意識改革の必要性を強く感じるようになった。最後に、同じ貧困問題を考えるにしても日本とは背景が異なるために同じ取り組みをしようとしても日本での実現は難しいと考える。しかし、ボランティアの力と必要性を理解した今、日本での取り組みを諦めようというのはいらないように思える。アメリカの貧困問題には独自の原因があり、独自の解決策があり、独自の意識がある。それと同じように日本にも日本にあったやり方というものがあるため、適応的に導入することは悪いことではないし、むしろ必要であると思う。また、貧困問題の具体的な解決を考えると同時に、日本人の当事者意識を変えることも必要であると考えた。以上のように、私はこの研修を通して二国間の違いを学び、日本に必要なものを考えることができた。</p>	
<p>〔研修後の抱負〕</p> <p>研修を通して強く痛感したのは、アメリカと日本の姿勢や考え方の違いであった。LGBTを受け入れるカストロや新しいものを次々と生むシリコンバレーなど、先入観をなくし、新たな価値観を生み出していくことは必要であると感じたが、日本のような安全性、親切さも生活する上では重要なものだった。今回は二国間での比較であったが、世界には様々な特徴ある国々が存在するので、今後は積極的に国々の違いを捉え、新たな価値観の創造をしていきたいと考えている。また、日本の社会問題から世界規模の問題まで、新たな価値観から生まれた多角的視点を以ての考察もこれから挑戦していきたい。</p>	

## 平成30年度 学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

研修参加者

(学部または研究科・学年) 法文学部 1年

氏 名: 茅野 美玲

授業科目名	海外研修基礎コース in カリフォルニア
研修先(国・地域) 滞在地	ソノマ州立大学 他(米国・サンフランシスコ、ソノマ)
研修期間	平成30年9月2日～平成30年9月16日
<p>〔研修を通じて得た成果〕</p> <p>今回のカリフォルニア研修を通して、初めて実際に本場の英語を聞き、現地の人達と会話することでいつも勉強していることを実践することができたり、これから何を勉強すべきか、またネイティブの人はどのように発音するのかなど学びにつなげられる発見が多くありました。現地にはいろいろな人種、民族の人がいて、それぞれ訛りがあったり、スピーキングがとても流暢で速かったり、普段学校や自分で学ぶ中で発見できない、現地でしか気づくことができないことをたくさん知りました。</p> <p>次に、アメリカ社会についての学びもありました。自由を掲げ、それぞれが自分を持ち、豊かに暮らしている、そんなイメージを持っていました。それもまた正解ではあったけれど、アメリカには多くの低所得層やホームレスの人たちがいて、彼らの中にはただただドラッグや酒ばかりの生活を送っており、そんな生活をしている人たちがきれいな街の近くにいる、それが恐ろしく、アメリカ社会の抱える闇を見ることができました。次世代を担う私たちはアメリカから見習うべきところもあるけれど、反面教師にしてどう解決すべきか、自分たちがそのようなことにならないようにするにはどうしていくべきか、良い面だけでなく悪い面も学ぶことができました。</p> <p>3つ目に、ボランティア精神について学びました。このプログラムではコミュニティでのボランティアの色々な話を聞いたり、自分が実際にボランティアに参加したりしました。先に述べた低所得者やホームレスの人たちのために健康な食料を入れたボックスを作ったり、実際にご飯を安く提供したり、それ以外でも自分たちのコミュニティのために無償で農場をつくったり、ご飯をつくるのが難しいご老人の家庭にご飯を運んだり、無償で働くのをいとわないボランティアのパスヨンが素晴らしいなと思い、ボランティア精神の重要性を知ることができました。これを機に、自分自身も人の役に立てるようなボランティアをしたいと思いますようになりました。また、ボランティアを通して、アメリカの人々はコミュニティに対する意識が強くあり、小さい頃からコミュニティに貢献するのは当たり前のことだという教えを受けて成長していることがわかりました。コミュニティの結束が強いのは素晴らしいように感じ、世界のため、国のためを考えつつも、実際に身の回りから行動することができる仕組みはすごいなと思い、自分にも見習えるところはまねしていきたいと思いました。このように、カリフォルニア研修を通して英語力の向上だけでなく、アメリカ社会、ボランティア精神、コミュニティの結びつきなど多くの学びを得ることが出来ました。このカリフォルニア研修での経験を活かして、語学力を向上させ、社会に貢献できるような人になりたいと思います。</p>	
<p>〔研修後の抱負〕</p> <p>様々な成果を経て、まずは英語力について、普段のただ文を読む、リスニングを聞くのではなく、実際にそれを使ってみたり、どのような発音をすれば近い発音ができるのか、日本国内だけでは現地のようにはいかないけれど、どのように勉強していくべきかを学ぶことが出来ました。また、グローバルな視点を心得、日本の社会だけでなく、世界では人々はどのように決まりをつくり、社会は成り立っているのか、日本とは真逆のシステムを取り入れている、日本の良さやここは見習いたいと思うところが多くありました。これから社会を担う世代であるため、その考えや、世界の標準というものを周りに伝えていながら、今回のカリフォルニア研修をこれだけで留めるのではなく、これからにつなげていきたいと考えています。</p>	

## 平成30年度 学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

研修参加者

(学部または研究科・学年) 法文学部法経社会学科 2年

氏 名: 福本 有希

授業科目名	海外研修基礎コース in カリフォルニア
研修先 (国・地域) 滞在地	ソノマ州立大学 他 (米国・サンフランシスコ、ソノマ)
研修期間	平成30年9月2日～平成30年9月16日
<p>〔研修を通じて得た成果〕</p> <p>この2週間の海外研修を通じて、日本で生活している中では気づくことが出来なかった多くの発見があった。研修に参加する前は、アメリカと日本の文化や慣習の違いについてあまり考えたことがなく、日本という国の中で得た価値観が全てだと考えていた。しかし、実際に海外で生活してみると、今まで考えたことがないような点での違いがあり、自分の持っている価値観や物の捉え方が全てではないと直に感じた。例えば、コミュニティについてである。私は、地域社会コースに所属していて、講義では地域のコミュニティについて多く取り上げられる。日本の場合は、地域コミュニティに貢献したいという考えを持ってその地域で暮らしている人は少ないように思える。若者は職を求めて、新たな地域へと移動しその地域に所属する共同体の一員という考えが低いことが挙げられる。しかし、アメリカの場合、コミュニティへの貢献を重視する考えを持つ人が多いということに気づく。その考えはボランティアという人を助けたいという気持ちに繋がっていると考える。それは、育った場所によるものだと思うが、コミュニティを大切にすることは助け合いの精神にも繋がる。日本では自宅の隣に誰が住んでいるかも分からない状況も多くある。アメリカの人々のコミュニケーションを見て、日本とは違う繋がり的重要性を感じる場面が多々あった。国が違うから考え方も違う、で終わらせるのではなく、それぞれの国の特徴を生かしたコミュニティの形成について、私たちは考える必要がある。今後の地域社会について考えていく上で参考にしたい。</p> <p>また、現地の人と英語で話すことで、自分自身の英語力を知ることが出来た。言われたことを理解できてもその返答が思いつかなかったり、自分の伝えたいことを英語でどのように表現すればよいか分からなかったりと苦勞する部分が多かった。何度も不思議な顔をされて、伝わらないことの悔しさを感じた。しかし、なんとか知っている単語や表現を使って伝えようとしていく中で、自分の気持ちを伝える大切さを学んだ。人は一生懸命な言動に動かされるものだと思えて思う。言葉にして初めて自分の考えが伝わるのが分かったし、黙っていても人との関係は始まらない。まずは、言葉にしようとして努力することで相手との良い関係を築くことが出来るということを知り、今まで以上にコミュニケーションの大切さを知った。</p> <p>2週間はあっという間だったが、広い世界に触れることで視野が大きく広がった。もっと海外について深く学びたいと考える。</p>	
<p>〔研修後の抱負〕</p> <p>この研修は海外について知る素晴らしい機会となった。今まで考えたことがなかった貧困問題やアメリカと日本の教育の違い、生活の違いなどの様々な点を実際にその社会で生活することで見えてくるものがたくさんあったと思う。現地の大学生との交流で、海外の学生はこんなにも勉強をしているということにも気づくことが出来て、私ももっと大学での勉強を頑張らなければならないと改めて感じた。語学の勉強はもちろんの事、この機会に異文化への興味が今まで以上に湧いた。今後は、自分でも研究を進めて、今の自分よりもっと成長した自分でもっと海外に行くチャンスを見たいと考える。</p>	

## 平成30年度 学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

研修参加者

(学部または研究科・学年) 理学部 生命化学科 2年

氏 名: 那須 万里萌

授業科目名	海外研修基礎コース in カリフォルニア
研修先(国・地域) 滞在地	ソノマ州立大学 他(米国・サンフランシスコ、ソノマ)
研修期間	平成30年9月2日～平成30年9月16日
〔研修を通じて得た成果〕	
<p>私が、今回この研修を経て学んだことは、アメリカは他民族国家であり、色々な国や文化や人種が共存していたことです。特にサンフランシスコは、考えていたようなアメリカ人を見かけることが少なく、移民ばかりで驚きました。もちろん、その中には日系人もたくさんいました。たくさんの移民と純アメリカ人が共存していたといえども、全く差別がなかったわけではありません。日系人の歴史を学んでいくと、戦時中は日系人は隔離されたり、戦後も周りからの差別に耐えながら、生きていたことがわかりました。現在は、当時と比べると差別がなくなってきました。日系移民に対する差別はほとんどないように見えたのですが、その一方でイスラム系やスペイン系の移民に対する風当たりは強いところが多く、まだまだ課題が多いようでした。日本も少子高齢化による働き不足を解消するために、これから外国人労働者がすごく増えることと思います。そこで、アメリカと同じように異なる民族、文化が共生することができるのかが問題です。現在の日本の、特に田舎では、外国人の子どもと一緒に学校に通ったりすることは珍しいです。一方、都会では、在日外国人の子どもが多く、そのための学校もあります。これからは、もっともっと在日外国人が増えて、社会に出た時も日本人以外の人と仕事をすることが当たり前になると思います。だからこそ、今回アメリカに行って、他民族が自然に共存できていることがすごいなと感じ、日本人は外国人と一緒に仕事をするとき、対応できるのかなと思いました。アメリカでこのように他民族が共存できている理由としては、アメリカ人がおおらかなことにも要因があるように感じました。また、今回アメリカに行くまで自分の英語力にまったく自信がありませんでしたが、ホストファミリーや周りの人がゆっくりわかりやすく話してくれたおかげで、結構聞き取ることはできました。話すことは思っていた以上に難しく、ほとんどできませんでした。自分がこんなに話せないんだということを知ることができたのは良い機会だったと思います。</p>	
〔研修後の抱負〕	
<p>英語が自分が思っていた以上に話せなかったので、机上の英語の勉強だけではなく、英会話に力を入れて勉強したいと思いました。TOEICにもこれからどんどん挑戦していきたいです。また、これからは外国人が話しかけてきた時も積極的に話すようにしたいです。</p>	

## 平成30年度 学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

研修参加者

(学部または研究科・学年) 法文学部 2年

氏 名: 鶴丸 莉緒

授業科目名	海外研修基礎コース in カリフォルニア
研修先(国・地域) 滞在地	ソノマ州立大学 他(米国・サンフランシスコ、ソノマ)
研修期間	平成30年9月2日～平成30年9月16日
<p>〔研修を通じて得た成果〕</p> <p>今回の研修では多文化主義、経済格差と社会福祉、グローバル化への地域の挑戦の3つのテーマについて学んだ。アメリカは人種のサラダボウルと表現されるほどだから様々な人種がいるとは思っていたが、チャイナタウンやメキシコ系の移民が多く住むミッションディストリクトなど、地区として成立するほど彼らの文化が共存しているとは想像がつかなかった。チャイナタウンは横浜や神戸にあるような中華街とは異なって以前行ったことのある台湾で見た風景に似ていた。これは、日本のように観光地として外部の人を迎え入れるために外観に工夫を凝らすのか、チャイナタウンのように中国系の人々の生活空間として街が存在しているかどうかによって生まれる違いであると思った。ミッションディストリクトは、壁画が有名な場所であり、芸術活動の一環として建物や塀に絵が描かれている。環境問題や平和に対するメッセージが込められた壁画や政治に対する風刺画があったり、その建物ではどのような活動をしているのかを表現する壁画があったりした。絵は独創的なものやアート性の高いものが多く、その表現からも多文化主義が感じられた。</p> <p>サンフランシスコで経済格差を最も感じたのは、ユニオンスクエアを歩いていた時だ。高級ブランド店やデパートが建ち並ぶ中で、雇用を求めるデモが行われていたり、ホームレスの人がゴミ箱をのぞき込んで漁っていたりする光景を目にした。鹿児島にもホームレスの人はいるが、その人数の多さや子どものホームレスがいるのは衝撃的であった。本研修では、彼らのような人に食事を提供するボランティアにも参加した。これは教会で行われ、寄付金とボランティアによって成り立っている活動である。私は入り口付近でコップやスプーンを渡す役割を担った。始めのころは訪れてきた人に対して近寄りたいたいと感じていて、声をかけるのを戸惑った。しかし、受付を担当していた現地の人は席が準備できるまでの間に自分から話しかけて一人一人と会話を楽しんでいる様子を見て意識が変わり、私は挨拶や簡単な英語を使っての世間話をする事ができた。</p> <p>研修の2週間目からはセバストポール市に移動して大学で授業を受けたり、ホームステイを体験したりした。私は専門課程で地域社会について学んでいるため、グローバル化が進む中でセバストポール市はどのような地域であるのか興味があった。セバストポール市の住民から「ここは小さな街だ」という言葉をよく耳にしたのが印象的である。最初は、小さな街=何も無い街というマイナスの意味で受け取り「そんなことはないのに」と感じていた。だが、小さな街であるからこそ住民同士の関係性が深くなること、街を構成する一員としての意識も高まるということに滞在しているうちに気づかされ、マイナスの意味だけではないと分かった。また、セバストポール市の自然や穏やかな雰囲気が好きだと言う住民も多く、自分たちの街に誇りを持っている様子がうかがえた。愛郷心があることは、地域について考え、さらに良くしていこうと行動することにつながっているのではないかなと思った。</p> <p>旅行ではできない貴重な体験をすることができ、自分の成長の糧となる2週間となった。</p>	
<p>〔研修後の抱負〕</p> <p>今回の研修でお世話になったホストファミリーの家では、毎日、夜ご飯の時に政治についての話があった。英語で話す能力が低いことはもちろんのことだが、それ以上に自分の政治の知識がなくて会話についていくことができなかった。選挙権を持っている身であるし、自分の生活に関わることであるから、これからは政治に関心を持ち自分の意見を述べられるようにしていくべきであると感じた。</p>	

## 平成30年度 学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

研修参加者

(学部または研究科・学年) 工学部 建築学科 2年

氏 名: 知念 由隆

授業科目名	海外研修基礎コース in カリフォルニア
研修先 (国・地域) 滞在地	ソノマ州立大学 他 (米国・サンフランシスコ、ソノマ)
研修期間	平成30年9月2日～平成30年9月16日
<p>〔研修を通じて得た成果〕</p> <p>今回私がカリフォルニア研修に参加した目的は、語学力の向上、多くの文化が混ざり合った地域に触れる事、現地の学生や一般家庭について知る事、その上で改めて日本は世界的にどのように見えているのかを知る事でした。実際に研修を終えると、この二週間で体験した事全てが新鮮で刺激的だったように思えます。</p> <p>前半に滞在したサンフランシスコでは、日本ではあまり見られないリベラルな街の雰囲気を見る事が出来ました。例えばLGBTと呼ばれる性的少数派の考えが尊重されている様子や、雇用の増加を求めてデモ活動を行う人々等です。また、サンフランシスコは世界的に見ても平均収入が高い地域として知られていますが、一方で住む場所がなく街中に居座って生活するいわゆる貧困層の人々も多く見かけました。この地域には貧しい方々へ無償で食事を提供する場所があり、そこで実際に炊き出しの手伝いをする事によって地域の格差社会に対しての意識を見る事も出来ました。性的少数派への理解や経済格差は現在世界中で嘆かれている重要な社会問題です。これらを間近に見て、その深刻さを感じた事で、より社会問題に対して関心を持つことができました。これは私にとって今回の研修で得た一つの大きな成果です。</p> <p>サンノゼでは現地学生の日本への関心、シリコンバレーの起源とメカニズム、日系アメリカ人の歴史などについて知ることが出来ました。日本は四季の風景や寿司、武道、漫画等の文化が特に魅力的で現地学生に好まれており、私よりも日本の流行に詳しい学生がいて驚きました。世界をリードする巨大な企業が集まるシリコンバレーという地域では、世界を豊かにしようと野心を燃やす人と、その人の生み出すアイデアを発掘、支援する機関が揃っており、今日のGoogleやApple、Microsoftもそのような環境で出来上がっているという事を学びました。日系アメリカ人は19世紀に労働者としてアメリカに渡ってきて以降独自の文化を作り上げ、今日までそれを脈々と受け継いできました。太平洋戦争の時には理不尽な扱いを受けた人々も多くいましたが、それでも彼らはアメリカ社会の形成に大きく寄与してきました。日系アメリカ人はとてもたくましく、偉大な人たちであることを改めて感じました。</p> <p>研修の後半では、セバストポール市で現地の家庭にホームステイしながら、ソノマ州立大学でアメリカにおける飢えと貧困、持続可能性な社会、教育について考え、英語で議論し合うという貴重な体験をしました。実際にフードバンク、ベイヤーファーム、小学校を訪れ現地で活動をする事によって、地域の活性化に献身的な人々から刺激を得る事が出来ました。特に気になった点として、日本よりも若者が意欲的で人として自立している印象がありました。時代背景により若者の育ち方に違いがあるのは当然ですが、今後の社会を創り上げていくのは我々の世代なので、その自覚を持つことは世界中の若者に共通して必要だと思います。日本を出て彼らの姿勢から刺激を得る事が出来たのは大きな財産になりました。私は一週間で二つの家庭にホームステイさせていただきましたが、それぞれの家庭で違ったアメリカらしい生活を体験することが出来ました。最初にお世話になった家庭では庭で収穫した林檎でアップルパイを作り、ホストファミリーの友人と一緒にバーベキューをし、夜には火を囲んで談笑するといったアメリカンスタイルのパーティーを楽しみました。後半の家庭ではホストファミリーの勤める会社が作成したゲームソフトで遊んだり、テレビで野球やアメフトの試合を一緒に観戦しました。英語で上手く話せない私達に対して分かりやすく話してくれた他、色々な面で優しく接してくれたおかげで私も積極的になれました。ここでできた彼らとのつながりも大きな財産になりました。この2週間の体験を終えて、これまでよりは世界の基</p>	

## 平成30年度 学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

研修参加者

(学部または研究科・学年) 工学部 建築学科 2年

氏 名: 知念 由隆

授業科目名	海外研修基礎コース in カリフォルニア
研修先 (国・地域) 滞在地	ソノマ州立大学 他 (米国・サンフランシスコ、ソノマ)
研修期間	平成30年9月2日～平成30年9月16日
<p>準を知ることができたと思います。生活水準が高く快適で、紳士的な人が多い日本は改めて良い国だと思いました。しかし現状の豊かさに慣れ、将来に対して少し楽観的なような気もします。よりグローバル化が進んでいく中でこの状態が続けば、国として遅れをとることになります。どのような形であれ、今回の研修で体験し自分なりに持った考えを今後に活かしていきたいです。</p>	
〔研修後の抱負〕	
<p>私には貧しい地域の子供たちに教育を受けさせるという将来やりたい事があります。その為には今以上に世界について知り、自分にできることは何かを考え行動していきたいと思っています。まずは自身の英語力を上げ、海外について理解を深められるようにします。また、大学で専攻している専門分野の勉強も熱心に行い、納得のいく就職が出来るように頑張ります。その道の知識や技術を将来の目標に活かしていけたらと思います。日本人としてだけでなく、何かしらの形で世界に貢献できるような人間になりたいです。</p>	



## 平成30年度 学生海外研修報告書

鹿兒島大学長 殿

研修参加者

(学部または研究科・学年) 法文学部 2年

氏 名: 上元 奈菜

授業科目名	海外研修基礎コース in カリフォルニア
研修先(国・地域) 滞在地	ソノマ州立大学 他(米国・サンフランシスコ、ソノマ)
研修期間	平成30年9月2日～平成30年9月16日
<p>〔研修を通じて得た成果〕</p> <p>今回の研修は多文化主義や経済格差と社会福祉、そしてグローバル化への地域の挑戦をテーマに行われたものであった。教会でホームレスの方々へのボランティアのお手伝いをさせていただいたり、日系人の方々とお話をさせていただき、本や資料からは読み取ることのできないような歴史の背景などを学ばせていただいたりなど、テーマに合った場所や人々を訪れ、様々な経験や学びを得ることができた。どの経験もそれぞれに特色があったが、それらに共通して私が驚かされたことがある。それは、人々の地域に対する思い、そしてそこから生み出される行動についてだ。それはアメリカにおいてのボランティアの活発さからうかがえた。教会で朝早くから大量の野菜を切り、ホームレスの方々への食事を準備したり、畑の水道管を整備するために何人もの方々が朝から働いていたり、アルバイトでお金をもらっていると聞いても不思議ではないような重労働に、本当に多くの方々がボランティアとして取り組んでいた。なぜこのようにボランティアが盛んであるのか、その理由を聞いてみると幼い頃から自分を育ててくれた地域への恩返しの重要性を教えられているのだという。自分が生まれ育った地域のためにボランティア活動をする事で、地域への恩返しをする。この考えを聞いて私は非常に驚かされた。私もこれまでボランティア活動に参加させていただいたことはあったが、ただ何となく役に立っているのだろうというような気持ちであり、何かのためにという意識をしたことはなく、どこか自己満足で取り組んでしまっていた。そのためにアメリカの地域に対する思いから行われているボランティアには非常に驚かされ、これまでの自分を反省する良い機会となった。また、私のホストマザーは、子どもたちはボランティア活動をすることによって地域に育てられている、そのために子どもを持つ地域外から来た大人たちも地域のために何かできないかと行動をする人たちが多くいるのだ、と話していた。このように子どもも大人も一体となって地域のために何かをという姿はあまり日本では見ることがなかったために、非常に驚かされたと同時にボランティアや地域づくりの本質について考えさせられた。そしてこのような地域づくりに対する考えはもっと広い分野にも向けられていた。それを感じたのはBayer Farmという農場を訪れたときである。その農場はsustainabilityという持続可能性をテーマとして開かれている農場であった。その場所もチーフの方以外はボランティアの方々によって構成されており、感心させられていたのだが、そこには注目すべき点がもう一つあった。それは巨大なコンポストを作るなどといった環境に対しても目が向けられているという点だ。世界中で深刻化している環境問題を解決するために、まずは身近な地域から手を付けていく。持続可能な地域を作り、それが世界のためとなる。グローバルにおいても重要なキーワードでもある『Think Globally, Act Locally』という言葉を的確に表している、そのような農場であった。環境問題については何十年も騒がれており、エコバック運動など様々な取り組みがなされているのは知っているが、スーパーでもレジ袋を持っている人が目立ち、夏に店に入れば冬なのではないかというくらいエアコンの温度は低い。環境が危険な状況であるのは知っているが、どこか自分には関係のないと考えている人が多いように感じ、実際に私もその中の一人であるのだと気づかされた。そのため、環境問題を自分たちの身近な問題であると考え、持続可能な環境を作ろうとする彼らの働きを見、実際にそのお手伝いをさせていただくことによって、身近なところから行動</p>	

## 平成30年度 学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

研修参加者

(学部または研究科・学年) 法文学部 2年

氏 名: 上元 奈菜

授業科目名	海外研修基礎コース in カリフォルニア
研修先(国・地域) 滞在地	ソノマ州立大学 他(米国・サンフランシスコ、ソノマ)
研修期間	平成30年9月2日～平成30年9月16日
<p>することは大きなことにつなげることができるのだということを実感することができた。さらに彼らはそれらの活動を子どもたちも交えて行っている。これによって次世代にも彼らの行動は受け継がれ、持続可能な環境を作ると同時に持続可能なコミュニティも創り上げているのだと私は考えた。これらの経験によってこれまでの私の考えはすべて『つもり』であったのだと気づかされた。地域に貢献しているつもり、環境問題に取り組んでいるつもりというように自己満足で終わっていた自分を恥ずかしく思った。地域は『作っていく』ものである。身近なところから始めた小さな行動はやがて大きなものとなる。今回の研修において大切なこの2つの事を学ぶことができた私は非常に幸運であったと考える。</p>	
<p>〔研修後の抱負〕</p> <p>今回の研修では上記のように本当に大きなことを学ぶことができた。そこで、今回得たことを無駄にしないようにと、特に印象的であったボランティア活動にさっそく取り組んでみた。それは児童を対象とした防災について学ぶイベントをお手伝いさせていただくものであったのだが、次世代を担う子どもたちを支えるお手伝いをさせていただいていると実感しながら取り組むことができ、以前の自己満足な自分から少しではあるが成長することができたように感じた。さらに、鹿児島市のシニアリーダークラブに所属することを決め、今回の研修で得られた学びをそこでの活動でも生かし、自分の育った鹿児島という地域に恩返ししていこうと考えている。また、私は将来鹿児島で地域づくりに関した仕事に就きたいと考えている。今回の研修を通して得られた学びを学生のうちに無駄にしないよう様々なことに取り組んでいきたい。</p>	

## 平成30年度 学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

研修参加者

(学部または研究科・学年) 法文学部 2年

氏 名: 用貝 優里香

授業科目名	海外研修基礎コース in カリフォルニア
研修先(国・地域) 滞在地	ソノマ州立大学 他(米国・サンフランシスコ、ソノマ)
研修期間	平成30年9月2日～平成30年9月16日
<p>〔研修を通じて得た成果〕</p> <p>今回の研修を通じて得た成果として2つを挙げたい。</p> <p>1つ目は、地域が抱える問題に貢献するボランティア活動の重要性を学べた点だ。私は以前から地域活性化や地域貢献に興味があり、この研修においても、地域の問題やその現状を実際に見ることを目的の1つとしていた。その中で、様々なボランティア団体の方と会い、実際の活動を見学・体験することは非常に興味深い経験だった。驚いたのは、訪問した生活の苦しい方々へ食料を届けるフードバンクや地元の消防隊、病気の方々のために健康的な食事を作るセレスという団体などいくつかの団体が、職員の活動だけでなく、ボランティアの方々の活動があるからこそ成り立っていた点だ。例えば私達は、多くの農作業がボランティアの方々によってなされているベイヤーファームという農場でボランティア活動をさせていただいた。ベイヤーファームはその地域の治安向上にも貢献している農場である。しかし、その農作業は非常に大変で、この活動を毎回誰かがボランティアでしていると思うと、ボランティアの方々の地域を思う強い気持ちが伝わってきた。また私達は、ホームレスの方々に食事を配給するボランティアの手伝いもさせていただいた。朝早くから多くのボランティアの方々が食事を作り、皿に注いで配る。これも大変な活動であるが、ボランティア、地元住民の方々にとっては、こうして地元に貢献するのは当たり前であるように見えた。このようにボランティアは団体が活動を維持する上で不可欠な存在であり、社会において大きな役割を担っていた。これは私にとって初めての光景であった。これまで地域の問題の解決策を考える際、行政の活動ばかり考えていたが、ボランティア活動も新たな視点として考えてみたい。</p> <p>2つ目は、異文化への興味と英語力を改めて確認することができた点だ。この研修のもう1つの目的として、異文化への興味と英語力を実際に海外に行つて確認することを挙げていた。これまで海外に1度も行ったことがないまま漠然と異文化に興味を抱いていたが、今回の研修で異文化への興味が更に深まった。ホストファミリーの食生活や公共共通のシステム、大学生の勉強風景、街を歩いている人々を見るだけでも日本とは違う文化を感じることができ、アメリカの文化と共に日本の文化を考える契機になった。英語力においては、スピーキングもリスニングも実力不足を痛感し、今後の英語学習へのやる気に繋がった。</p>	
<p>〔研修後の抱負〕</p> <p>研修後の抱負は、地域の問題を考える際は広い視野を持つことを意識する、多くの異文化を学んで体験する、英語学習を続けるの3つである。今回の研修では、普段体験することが出来ない経験だけでなく、アメリカの日常も知ることが出来た。社会問題のような大きなテーマも、その影響や原因は日常生活にも繋がっているということを忘れず、アンテナを張り続けて、今後の学習に生かしたい。</p>	

## 平成30年度 学生海外研修報告書

鹿兒島大学長 殿

研修参加者

(学部または研究科・学年) 法文学部人文学科 1年

氏 名: 徳田 駿仁

授業科目名	海外研修基礎コース in カリフォルニア
研修先(国・地域) 滞在地	ソノマ州立大学 他(米国・サンフランシスコ、ソノマ)
研修期間	平成30年9月2日～平成30年9月16日
<p>〔研修を通じて得た成果〕</p> <p>今回の研修を通じて私が得たものは大きく分けて2つあります。</p> <p>1つ目は、色々なものに対して自分の考えを深めることが出来たことです。アメリカではたくさんのことを経験しました。サンフランシスコの美しい町並みと、たくさんのホームレスの人々。LGBTの人々が伸び伸びと暮らす町。ユニークなボランティアなど。たくさんの民族、考えを持った人々が集まるカリフォルニアだからこそ経験できたこと、日本では出来ないことをたくさん経験することができました。また事前学習から日系人の歴史を学び、実際に日本町でおばあちゃん達とお話する機会もありました。たくさんたくさん感じることもあり、それらは全て自分の将来を考える上での参考になりました。またアメリカの社会問題を日本と比較しながら考えることで、外の視点から日本を見つめる良い機会にもなりました。</p> <p>そして2つ目は、私が人として変わることができたことです。具体的には、以前より積極性が身につきました。研修中の活動には全て、個人個人が自分で考えて意見を言う機会が設けられていました。私は初め、なかなか積極的に発言することができずにいました。それでも、アメリカでは何かしら自分の意見を言うことがとても重要なんだと生活の中で感じ、また他のメンバーからもいい刺激を受けて、終盤には自ら手を上げて発言することが出来るようになりました。普段の大学の講義で何か意見を求められた時、誰も手をあげない雰囲気違和感を覚えながら自分だって何もできていませんでした。自分の考えを口に出すことの大事さが身にしみてわかった今、もっと積極的に講義に参加していけるように思います。また、拙い英語でも頑張って使おうとしたことが良かったと思います。特にホームステイ先では英語だけの生活だったので、そういう環境に身を置くことができたことはとても幸せでした。アメリカに行ってわかったことは、大事なものは正確に伝えようとするのではなく伝えようとする気持ちだということです。こう思えるようになってからミスを恐れなくなりました。この心構えが、今後の語学力向上の鍵だと思っています。最後に、一緒に研修に参加した仲間たちと出会えたこと、ホストファミリーと本当の家族のような関係が築けたことなど、私は本当にたくさんこの研修で得ることが出来ました。</p>	
<p>〔研修後の抱負〕</p> <p>研修が終わった今、この貴重な経験は絶対に無駄には出来ないという思いです。これから明確なプランと高い意識を持って大学生活を送りたいと思います。英語は確実に自分のものにし、中国語など他の言語の習得も考えています。また今回の研修で、定期的に外国へ行く必要があると感じました。可能な限り、年に1回はどこかしらの国に行きたいと思っています。今まで将来についてはノープランでしたが、今はいくつかやりたいことが見つかりました。そのために必要なスキルをコツコツと磨いていきたいです。</p>	

## 平成30年度 学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

研修参加者

(学部または研究科・学年) 法文学部 人文学科 1年

氏 名: 飯田 晃生

授業科目名	海外研修基礎コース in カリフォルニア
研修先(国・地域) 滞在地	ソノマ州立大学 他(米国・サンフランシスコ、ソノマ)
研修期間	平成30年9月2日～平成30年9月16日
<p>〔研修を通じて得た成果〕</p> <p>私は今回実施されたカリフォルニア海外研修基礎コースに参加して、様々なことを経験し、学習した。まず、経験できて良かったと考えられるのは、自分たち生徒だけでのフィールドワークと現地で行われているボランティア活動への参加である。カリフォルニアに到着した次の日にいきなりフィールドワークをした私たちだが、非常に大変なものだった。なぜなら、生徒たちだけで行わなければならなかったし、場所はともかく公共機関などの使い方も全く知らなかったからだ。特に悩まされたのが「Uber」というアプリである。これは自分たちの周辺にいる車の運転手に自分たちの居場所を伝え、そこに来てもらい、目的地まで送ってもらうシステムである。これは最近実装されたシステムで、日本でも実装しようと考えられているものである。私たちはこれと公共交通機関を利用して市内を回ったのだが、これらを利用するのが非常に困難だった。まず、バスは日本のものとは全く違うシステムだったので何度も意図した道とは異なる方向へ行ったし、かなり大変だった。また、英語がそもそも聞き取れないから、街の人に聞いても結局わからずじまいであった。それでもみんなで協力し合っ、なんとか予定通りの目的地へ行くことができた。フィールドワークを実施した日の後半には、大半の公共交通機関の仕組みがわかったし、良い経験になったと思う。結局Uberは失敗で終わったが、それでもこのフィールドワークを経験できたことはかなり自信につながったと確信している。また、もう一つの良い経験であるボランティア活動も素晴らしい経験だった。まず、私はアメリカでボランティア活動があれば重要視されているとは現地に行くまで知らなかった。具体例を出すと、なんとアメリカでは大学進学や就職活動時に、自分たちがこれまでどのようなボランティア活動をしてきたかが評価の対象となっているのである。これは日本では見られない現象だ。それほど、アメリカではボランティア活動が大事なのである。また、特に驚いたのが、ボランティアをしている学生たちは自分たちの将来についても考えているが、特に、ボランティアを行う相手についてより一層考え、想っていた。この精神は我々が真似すべき点だと思う。確かに、自分の将来について考えるのは当然ではあるが、それでも相手のことを考えなければよい行動をしているとは判断しにくい。私は、これからボランティア活動や人助けをするときは、まず相手のことについて考えようと思った。以上より、私は今回の海外研修を通して、アメリカで起きた困難を乗り越えた「自信」とボランティア活動時に見える、「サポートの意識」を学習した。もちろん、英語力もわずかだが向上したと思う。それでもこの2点はアメリカで学んだ重要なものだ。今後の自分の生活に活かしていきたい。</p> <p>〔研修後の抱負〕</p> <p>今回の海外研修を通して、私はこれから自分の目標を2つ掲げた。まず一つ目が、ボランティア活動への積極的な参加だ。アメリカで多く経験したのはボランティア活動だ。この時に学習したことを日本で活かしたい。ただ、私は未だに日本のボランティア活動の現状・仕組みを詳しく理解していないので、まずはその理解から始めるつもりだ。また、二つ目は、英語力のさらなる向上である。私はアメリカに滞在して、自分の英語力がいかに乏しいのかをひどく痛感した。このままでは、自分の長所とはならない。なので、今後は鹿児島大学で開催されるイベント(LOLなど)・サークル活動などに積極的に参加して、英語に触れる機会を増やし、英語を活用していきたい。失敗を経験して、自分の英語力を向上させたいと思う。</p>	

## 平成30年度 学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

研修参加者

(学部または研究科・学年) 法文学部 人文学科 1年

氏 名: 飯田 晃生

授業科目名	海外研修基礎コース in カリフォルニア
研修先(国・地域) 滞在地	ソノマ州立大学 他(米国・サンフランシスコ、ソノマ)
研修期間	平成30年9月2日～平成30年9月16日
<p>〔研修を通じて得た成果〕</p> <p>私は今回実施されたカリフォルニア海外研修基礎コースに参加して、様々なことを経験し、学習した。まず、経験できて良かったと考えられるのは、自分たち生徒だけでのフィールドワークと現地で行われているボランティア活動への参加である。カリフォルニアに到着した次の日にいきなりフィールドワークをした私たちだが、非常に大変なものだった。なぜなら、生徒たちだけで行わなければならなかったし、場所はともかく公共機関などの使い方も全く知らなかったからだ。特に悩まされたのが「Uber」というアプリである。これは自分たちの周辺にいる車の運転手に自分たちの居場所を伝え、そこに来てもらい、目的地まで送ってもらうシステムである。これは最近実装されたシステムで、日本でも実装しようと考えられているものである。私たちはこれと公共交通機関を利用して市内を回ったのだが、これらを利用するのが非常に困難だった。まず、バスは日本のものとは全く違うシステムだったので何度も意図した道とは異なる方向へ行ったし、かなり大変だった。また、英語がそもそも聞き取れないから、街の人に聞いても結局わからずじまいであった。それでもみんなで協力し合っ、なんとか予定通りの目的地へ行くことができた。フィールドワークを実施した日の後半には、大半の公共交通機関の仕組みがわかったし、良い経験になったと思う。結局Uberは失敗で終わったが、それでもこのフィールドワークを経験できたことはかなり自信につながったと確信している。また、もう一つの良い経験であるボランティア活動も素晴らしい経験だった。まず、私はアメリカでボランティア活動があれば重要視されているとは現地に行くまで知らなかった。具体例を出すと、なんとアメリカでは大学進学や就職活動時に、自分たちがこれまでどのようなボランティア活動をしてきたかが評価の対象となっているのである。これは日本では見られない現象だ。それほど、アメリカではボランティア活動が大事なのである。また、特に驚いたのが、ボランティアをしている学生たちは自分たちの将来についても考えているが、特に、ボランティアを行う相手についてより一層考え、想っていた。この精神は我々が真似すべき点だと思う。確かに、自分の将来について考えるのは当然ではあるが、それでも相手のことを考えなければよい行動をしているとは判断しにくい。私は、これからボランティア活動や人助けをするときは、まず相手のことについて考えようと思った。以上より、私は今回の海外研修を通して、アメリカで起きた困難を乗り越えた「自信」とボランティア活動時に見える、「サポートの意識」を学習した。もちろん、英語力もわずかだが向上したと思う。それでもこの2点はアメリカで学んだ重要なものだ。今後の自分の生活に活かしていきたい。</p> <p>〔研修後の抱負〕</p> <p>今回の海外研修を通して、私はこれから自分の目標を2つ掲げた。まず一つ目が、ボランティア活動への積極的な参加だ。アメリカで多く経験したのはボランティア活動だ。この時に学習したことを日本で活かしたい。ただ、私は未だに日本のボランティア活動の現状・仕組みを詳しく理解していないので、まずはその理解から始めるつもりだ。また、二つ目は、英語力のさらなる向上である。私はアメリカに滞在して、自分の英語力がいかに乏しいのかをひどく痛感した。このままでは、自分の長所とはならない。なので、今後は鹿児島大学で開催されるイベント(LOLなど)・サークル活動などに積極的に参加して、英語に触れる機会を増やし、英語を活用していきたい。失敗を経験して、自分の英語力を向上させたいと思う。</p>	